

平成29年度事業報告書

公益社団法人 被害者サポートセンターおかやま（VSCO）

平成29年度事業の状況

1 はじめに

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター立ち上げ準備のために、平成28年7月27日に「性犯罪被害者等支援センターおかやま」として専用電話を設置し、専用電話相談室をビル1階に開設した。同時にVSCO事務局も1階に移転させて2年が経過した。性犯罪被害者等がいつでも安心して相談ができるよう、相談時間の延長（平日21時まで）をして性犯罪被害者に対する支援の拡充を図った。

なお、赤い羽根共同募金の「地域ささえあいプロジェクト」に参画しての募金活動、市町村からの補助金、日本財団からの預保納付金助成事業の助成等により資金調達計画（財政基盤確立）もすすめることができた。

2 役員等

代表理事	平松敏男
業務執行理事	嶋村 稔、難波 光、天野勝昭（～6月24日）
理事	天野勝昭（6月25日～）、若林久義、東 隆司、森 陽子、 中島豊爾、真邊和美、
監事	森本治雄
顧問	村田吉隆、岡崎 彬、菅波 茂、皆木英也
協力スタッフ	精神科医：堀井茂男、来住由樹 弁護士：14人
事務局長	山崎悦子（～11月30日）、藤原一徳（12月1日～）
事務局長代理	藤原一徳（～11月30日）、山崎悦子（12月1日～）
事務局長補佐	薬師寺明生
事務局員	片山 文
支援員（平成30年3月1日現在）	

犯罪被害相談員5名、犯罪被害者等給付金申請補助員4名、電話・面接相談員22名、犯罪被害者直接支援員20名、自助グループ支援員2名、性被害等相談員4名

3 主な事項

（1）平成29年6月24日 平成29年度定時社員総会

平成28年度事業を報告し、決算が承認された。理事2人（平松敏男・天野勝昭）が選任された。総会後は、「岡山県警察の犯罪被害者支援について」と題して、岡山県警察本部警務部総務統括官 警視中村智彦氏の基調講演会を行った。

なお、理事会は月1回開催した（4月18日、5月23日、6月13日・24日、7月14日、8月17日、9月14日、10月19日、11月22日、12月12日、1月16日、2月9日、3月22日）。6月24日の理事会において代表理事に平松敏男理事を選定した。公益社団法人移行により、理事会の承認事項が多くなり、財政基盤づくり、広報啓発活動、性犯罪被害者のための支援活動等活発に議論をし、議決している。

(2) 会員の推移

正会員	平成29年4月1日現在	個人118名、団体5団体
	平成30年3月31日現在	個人111名、団体5団体
賛助会員	平成29年4月1日現在	個人174名、団体58団体
	平成30年3月31日現在	個人206名、団体58団体

(3) 表彰状・感謝状の贈呈

感謝状の贈呈：日時 平成29年6月16日

(平成29年度岡山県遊技業協同組合総会)

受賞者 多額寄付者(団体1)

表彰状の贈呈：日時 平成29年6月24日(平成29年度定時社員総会)

受賞者 支援員1人

感謝状の贈呈：日時 平成29年6月24日(平成29年度定時社員総会)

受賞者 正会員(個人2人) 正会員歴10年

賛助会員(個人3人) 賛助会員歴10年

賛助会員(団体2) 賛助会員歴10年

多額寄付者(個人1人)

多額寄付者(団体3)

4 主な事業及び活動内容

(1) 相談・直接支援事業、普及啓発等の事業について

平成29年4月1日、岡山県警察本部と平成29年度被害者相談・直接支援等業務委託契約を締結。平成29年5月1日に岡山県から犯罪被害者等支援のための普及啓発・人材育成業務を受託。

実績は次のとおり

ア 相談事業

実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり

前年度より、電話相談件数は61件減、面接相談件数は6件増。

イ 直接支援事業

(ア) 実績は、別紙「被害者支援活動の実施状況」のとおり。

支援件数は前年度より43件減。内容的には深刻な相談が多くなっている。

(イ) 直接支援事業の一環として2つの自助グループ活動を実施しており、性暴力

被害者の会Ⅰを10回、性暴力被害者の会Ⅱを5回開催した。

(ウ) 犯罪被害者支援金については、

- ・全国ネット犯罪被害者支援基金の給付0件（前年は3件）
- ・VSCO犯罪被害者支援金の支給15件（前年は25件）
- ・VSCO性犯罪被害者のための緊急支援の支給1件（前年は8件）

ウ 広報啓発事業

(ア) 岡山市との共催事業

- ・7月9日（土）岡山市地域ケア総合推進センター 参加120人
講演 「思いやりで社会を変える」 ～飲酒運転撲滅への願い～
講師 山本美也子氏（飲酒運転事故被害者遺族）
ミニコンサート（夫婦でデュエット）
盲目の歌手・シンガーソングライター 武川浩明
「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(イ) 岡山県委託事業

- ・10月14日（土）倉敷中央病院 参加84人
講演 「性暴力と生きることのリアル ～被害からの回復のために～」
講師 山本潤氏（性暴力被害者支援看護師）
「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(ウ) 岡山県警察委託事業

- ・11月25日（土）ピュアリティまきび 参加171人
講演 「明日を生きる」
講師 加藤裕司氏（殺人等被害者遺族）
ディスカッション
加藤裕司氏、平松敏男代表理事、難波光VSCO犯罪被害相談員
岡山県警音楽隊による演奏
「いのちと魂のメッセージ」のパネル展示

(エ) その他の活動

- ・機関誌「いつでもそばに」第13号の発行。
- ・ファンドレイジング活動で事業所・関係団体等を訪問して、VSCOの活動を紹介
- ・ホームページで、「被害にあった方へ」「性犯罪にあった方へ」、「活動状況」、「今日のVSCOは?」、「自治体の被害者支援」、「会員・組織、機関誌」、「VSCOの講師派遣制度」、「VSCOの支援を受けて」、「VSCOを支援する会」、「VSCOのテーマソングー窓の外には一」、「入会のお願い」、「寄附のお願い」、等々を掲載
- ・啓発チラシ配布等で、県民や被害者に向けて、フォーラムの開催や電話相談等を紹介

- ・ 関係団体や関係機関との連携として、県産婦人科医会及び加盟医療機関との連絡会
- ・ 関係団体（者）への広報啓発として、高校教諭・保護司会・市役所職員等への講話6回

(2) 支援員等養成研修事業

ア 支援員養成基礎講座・中級講座（岡山県共同募金会と日本財団の助成を受けて実施）

開催回数：基礎講座6回、中級講座6回

受講者数：基礎講座59名（大学生48名・一般11名）、中級講座9名

修了者数：基礎講座34名（大学生31名・一般3名）、中級講座3名

新規支援員登録者数：2名

若者が被害者支援の大切さを理解し、ボランティア活動を推進するシステムづくりのため、県内の大学生に受講を呼び掛けたところ、山陽学園大学、美作大学、環太平洋大学、ノートルダム清心女子大学、岡山大学、岡山県立大学の学生が基礎講座を受講し、内31人に修了書を交付した。

【基礎講座】

開催月日	内 容	参加人数
5月20日	開講式（代表理事挨拶・自己紹介） 犯罪被害者支援の歴史 講師：平松敏男（弁護士） 「被害者サポートセンターおかやま」の活動内容等 講師：VSCO犯罪被害相談員	学生35人 一般10人
5月27日	模擬裁判（岡山商科大学） 講師：平松敏男（弁護士）	学生39人
5月31日	刑事裁判の傍聴と解説（岡山地方裁判所） 講師：平松敏男（弁護士）	一般5人
6月3日	消費者被害と消費生活センターの働き 講師：岡山県消費生活センター 経済的被害の回復 講師：三好英宏（弁護士） 交通事故被害者のサポート 講師：平松敏男（弁護士） VSCO犯罪被害相談員	学生37人 一般9人
6月17日	性犯罪被害者のサポート 講師：被害者Cさん・Cさんの夫 ストーカー被害者のサポート 講師：県警本部生活安全部子ども女性安全対策課	学生33人 一般10人

7月1日	児童虐待と児童相談所の働き 講師：岡山市こども総合相談所 DV被害者と女性相談所の働き 講師：岡山県女性相談所	学生 35人 一般 9人
7月15日	最愛の家族の命を奪われた遺族の立場から 講師：被害者遺族（加藤さん） 閉講式（代表理事挨拶・学生への修了書交付）	学生 33人 一般 9人

【中級講座】

開催月日	内 容	参加人数
7月29日	開講式（代表理事挨拶・受講者の一言コメント） 特別講演「支援者のストレスとサポート」 講師：三木善彦（帝塚山大学名誉教授・大阪被害者支援アドボカシーセンター顧問）	一般 6人
8月26日	電話相談の基礎 講師：VSCO研修委員 被害者支援を考える～精神科医の立場から～ 講師：来住由樹 （岡山県精神科医療センター院長）	一般 5人
9月13日	検察庁見学・裁判傍聴	一般 3人
9月16日	電話相談の実際 ～ロールプレイを通じて～ 自分自身を知りましょう（心理テスト） 講師：VSCO研修委員	一般 5人
9月24日	直接支援の実際（1） 講師：VSCO研修委員	一般 2人
9月30日	直接支援の実際（2）（3） 講師：VSCO研修委員 閉講式（代表理事挨拶・修了書交付）	一般 6人
10月21日	面接 講師：堀井茂男 （公益財団法人慈圭会 慈圭病院院長）	

成果と課題

受講者総数59人中、県内6大学より48人の大学生が初級（基礎講座）を受講し34人に修了証を交付した。若者が被害者支援の大切さを理解しボランティア活動を推進するシステムづくりとなった。

一般受講者は11人であったが、3人が初級（基礎講座）と中級講座の全過程を修了した。その内2人を支援員として採用し11月から支援員補助として電話相談に携わっている。人材育成には数年を要するため、支援員の育成が重要課題である。支援員の採用人数は少数ではあるが、支援員候補者発掘のためには、毎年養成講座を行っていく必要があり受講者の募集を広く呼びかける必要がある。

受講した学生の感想

- ・私は、小学校の先生になりたいと思っています。いじめを見て見ぬふりをせず、絶対になくすつもりで児童達に人としてのことを教えていきたいです。
- ・私は、来年度には看護師として就職します。被害者にとって受診しやすい病院をつくるために、看護師は環境を整える必要あると考えました。
- ・直接、被害者とそのご主人に話を聞き、被害者の苦しみ、また、周りにいる夫の辛さなど感じるものが大きかった。被害者は、被害を受けた自分が悪いと思ってしまい、また、常にそう感じる要素を見つけてしまう。それに対して、「あなたは何も悪くない」と、つたえることがどれほどの力があるかを感じた。
- ・養成講座を受講した学生で、心理学を学んでいます。受講後、フォーラムの司会を担当させてもらったが、性暴力に苦しんだ講師山本潤さんは、人に話ができるようになるまでに30年かかったとおっしゃっていました。こころに傷を負った方々に、少しでも貢献できたらいいなと改めて思いました。

一般受講者の感想

- ・A市の担当職員であるが、被害者支援団体の活動や当事者からの体験を聞いて被害者の心情をより理解することができた。その後市で発生した女性、子どもの被害事案において必要な支援が連携によりタイムリーに提供することができ、養成講座を受講して良かった。

イ 支援員継続研修（日本財団の助成を受けて実施）

実施日：毎月第2土曜日 16：30～18：30 概ね毎回15人が参加

回数：13回

活動中の支援員を対象に、外部講師4人に専門研修を依頼し、ロールプレイを中心とした専門的な指導を受けることができた。

【支援員継続研修】

開催月日	基礎知識	内 容	参加
4月8日	少年審判に関連する被害者支援制度	ロールプレイ	14人
5月13日	①受刑中の処遇・出所情報などの通知②再被害の防止	ロールプレイ	16人
6月10日	DVD視聴	事例検討	14人
7月9日	岡山市フォーラムに参加 「思いやりで社会を変える」 －飲酒運転撲滅への願い－ 講師：山本美也子（飲酒運転事故被害者遺族）		17人
7月29日	養成講座特別講演 「支援者のストレスとサポート」 講師：三木善彦（帝塚山大学名誉教授）		7人
8月5日	講義「ストーカーについて」 講師：平松敏男（弁護士）		11人
9月9日	①全国ネット支援金②VSCO支援金③VSCO緊急支援金制度について説明 中四国ブロック研修会報告 電話相談事例検討		16人
10月14日	岡山県委託事業フォーラムに参加 「性暴力と生きることのリアル ～被害からの回復のために～」 講師：山本潤（性暴力被害者支援看護師）		10人
11月11日	変わる性犯罪と法・事例検討 （カウセリングロールプレイ） 講師：松村正基 （財団法人メンタルケア協会精神対話士）		15人
12月9日	事例に基づくロールプレイ 講師：松村正基 （財団法人メンタルケア協会精神対話士）		15人
1月13日	【基礎知識】 VSCOの支援と連携の実際 【ロールプレイ&WORK】 構成事例WORK、CRP(SA) 講師：松村正基 （財団法人メンタルケア協会精神対話士）		15人

2月10日	【基礎知識】 V S C Oの支援と連携の実際 【ロールプレイ&WORK】 構成事例 WORK、CRP (SA) 講師：松村正基 (財団法人メンタルケア協会精神対話士)	10人
3月10日	ロールプレイ&WORK トラウマインフォームドケアの実際、二次受傷とバーンアウト、構成事例 WORK、CRP (SA) 講師：松村正基 (財団法人メンタルケア協会精神対話士)	11人

ウ 全国ネットワーク等主催の研修（*印は日本財団の助成を受けて実施）

- 4月20・21日：事務局長会議（東京）
- * 4月29・30日：性暴力救援センター第3回全国研修会（大阪）
- * 6月12～16日：直接支援実地研修会（東京）
- 7月7日：経理事務等会議（東京）
- 8月4・5日：全国ネットワーク支援活動会議（東京）
- 8月25日：中四国ブロック事務局長会議（鳥取）
- * 8月26・27日：中四国ブロック上半期質の向上研修会（鳥取）3人参加
- * 9月17・18日：性暴力救援センター全国連絡会議（大阪）2人参加
- * 10月6・7・8日：全国被害者支援フォーラム秋期大会・全国研修会（東京）6人参加
- 11月14日：公益法人会計研修（松江市）2人参加
- * 1月18・19日：性犯罪被害者等支援体制整備促進事業研修（春日市）
- 1月19日：中四国ブロック事務局長会議（香川）
- 1月20・21日：中四国ブロック下半期質の向上研修会（香川）3人参加
- 1月23日：公益法人会計研修（高知）
- * 3月16・17・18日：ファンドレイジング日本2018（東京）2人参加

(3) 預保納付金支援事業の助成事業

平成29年4月1日、日本財団の預保納付金支援事業として、次の2事業について助成契約書を締結。

事業内容

ア 団体運営の自立に向けた基盤づくり

- (ア) コンサルタントの指導（現地訪問 年4回）
- (イ) ファンドレイザーの雇用（常勤1名、非常勤週4日1名）
- (ウ) 正会員・賛助会員の獲得

- (エ) 寄付型自動販売機の設置
- (オ) ホンデリング活動の推進
- (カ) 募金箱の設置
- (キ) 岡山県共同募金（テーマ募金）への参加
- (ク) 補助金・助成金の獲得

イ 犯罪被害者支援に関わる人材育成

- (ア) 性犯罪被害者に対する支援の拡充
 - 性犯罪被害者専用電話の相談時間の延長（平日21時まで）
- (イ) ボランティア相談員養成講座の開設
- (ウ) 相談員に対する研修の実施
- (エ) 広報啓発活動の実施
- (オ) その他（犯罪被害相談に精通した事務担当者の配置）

アの事業達成状況（団体運営の自立に向けた基盤づくり）

コンサルタントの指導によるファンドレイジング活動の実施でありファンドレイジング事業の構築に向けて、コンサルタントの指導を年4回受けた。ファンドレイジング活動の実施者として専属のファンドレイザー1人の雇用と担当者1人を雇い上げて、（ウ）～（ク）の活動をきめ細かく行った。

当初は、賛助会員（団体）の獲得を大目標としていたが、経済的な景気低迷もあり、事業所の賛助会員加入は困難な状況であった。しかし、訪問活動では、当センターの活動説明を熱心に聞いてくださり、被害者支援の輪が広がっている手ごたえがあった。

寄付型自動販売機について、これまでかなりの努力をしたが、平成25年度は3台（48,663円）であったものが、県警察と、自販機メーカーの協力もあって98台の設置、寄付金2,424,404円にまですることができた。

ホンデリングについても、気楽に協力してもらえる寄附行為と位置づけて、ファンドレイジングでの訪問先では必ずお願いした。また、フォーラムの会場でも資料に折り込む等して協力を依頼した。4年目の事業として、34件66,190円の寄付があった。（昨年より、36,109円の減額）

募金箱については、3年前に88台作製して、現在までに59台設置している。1月～3月の間に募金箱を37か所回収して、182,409円の募金を得た。（昨年より、12,418円の増額）

共同募金会のテーマ募金は、100万円を目標として募金活動を行ったが、目標額を上回る210万円の募金をいただくことができた。この助成金は、支援員養成講座と性犯罪被害者等支援センターおかやまの運営費に当てさせてもらった。

補助金・助成金の獲得については、市町村の人口減少もあり昨年より増額にはいたら

なかった（昨年より 6,525 円の減）が従来の 7 市 10 町 2 村から総額 1,554,808 円の補助金を受けた。この補助金は、相談事業、養成研修事業、広報啓発事業に使わせてもらった。

イの事業達成状況（犯罪被害者支援に関わる人材育成）

（ア）性犯罪被害者に対する支援の拡充

性犯罪被害者専用相談電話の相談時間の延長（平日 21 時まで）

性犯罪被害者等がいつでも安心して相談することができるよう、専用電話を設置して毎週月曜日から金曜日までは午前 10 時から午後 9 時まで、毎週土曜日は午前 10 時から午後 4 時まで 2 人の電話相談員が相談に応じた。相談受理内容は次のとおりであるが、必要な人には面接相談や病院への付添い等の直接支援へもつなげた。

相談受理内容（ ）継続件数

- a 相談件数：98（36）
- b 相談内容：心理的問題 15（6）、問い合わせ 4（0）、その他 79（30）
- c 被害内容：強姦 31（11）、強制わいせつ 30（18）、その他の性犯罪 7（4）、DV 1（0）、虐待 5（1）、その他 24（2）
- d 相談者：本人 72（27）、親 13（5）、その他 13（4）
- e 男女別：男性 16（5）、女性 82（31）
- f 相談端緒：マスメディア 16（1）、HP 19（6）、リーフレット 4（1）
他機関 16（7）、その他 9（3）、不明 34（18）
- g 紹介：警察 2、精神科医 1、VSCO 12

（イ）ボランティア相談員養成講座の開設

ボランティア相談員養成のための養成講座を 5 月 20 日～10 月 7 日まで初級（基礎講座）6 回と中級講座 6 回合計 12 回開催した。参加等の状況は、受講者数 59 人、講師数 9 人、運営担当者 40 人である。

（ウ）相談員研修への派遣

- 4/29・30：性暴力救援センター第 3 回全国研修会（大阪）2 人参加
- 6/12～16：直接支援実施研修会（東京）
- 8/4・5：全国ネットワーク支援活動会議（東京）
- 8/26・27：中四国ブロック上半期質の向上研修会（鳥取県）2 人参加
- 9/17・18：性暴力救援センター全国連絡会議（大阪）2 人参加
- 10/6・7・8：全国ネットワークフォーラム・秋期全国研修会（東京）
5 人参加
- 1/18・19：性犯罪被害者等支援体制整備促進事業研修（春日市）
- 1/20・21：中・四国ブロック質の向上下半期研修会（香川）3 人参加

(エ) 広報啓発活動の実施

- a. 高校・大学通学路線を対象にした性犯罪被害啓発ラッピングバス1台運行。4月12日に運行式を実施し、同日から運行した。運行式にはマスコミ数社の取材を受けたので新聞3社（毎日新聞・朝日新聞・山陽新聞）に掲載してもらった。
- b. 機関誌（4,000部）、性犯罪被害者支援に関するパンフレット（5,000部）およびカード（5,000部）の作成
- c. その他：広報啓発事業として次のとおり講話を行った。

【広報啓発事業】

開催月日	内 容
4月13日	講 話：センターの取り組みについて 講 師：犯罪被害相談員(難波光・片山文) 会 場：県立南高校 対 象：教諭
6月26日	講 話：犯罪被害者等の支援について 講 師：犯罪被害相談員 (難波光・吉村万理) 会 場：ホットプラザ大供 対 象：岡山市内の公民館に配属されている地域担当職員
9月11日	講 話：センターの取り組みについて 講 師：犯罪被害相談員(難波光) 会 場：県立瀬戸南高校支援学校 対 象：教諭
9月21日	講 話：センターの取り組みについて 講 師：犯罪被害相談員森陽子 事務局長補佐薬師寺明生 会 場：西大寺公民館 対 象：岡山東地区保護司会
1月15日	講 話：DV被害に対する民間支援団体の取り組みと地域への期待 講 師：犯罪被害相談員 (難波光・片山 文) 会 場：総社市総合福祉センター 対 象：犯罪被害者支援に関心のある市民及び専門職等

1月26日	講 話：犯罪被害者等の支援について 講 師：犯罪被害相談員 (難波光・片山 文) 会 場：津山市役所 対 象：津山市犯罪被害者等支援ネット ワーク会議メンバー
-------	--

(オ) その他（犯罪被害相談に精通した事務担当者を配置）

犯罪被害者等支援体制の充実強化と事務局体制の強化を図るために犯罪被害相談に精通した者を常勤で事務局に配置した。当センターの常勤職員としてタイムリーに被害相談に応じることができると共に関係機関との連絡調整ができやすくなり、常勤職員として犯罪被害相談員を配置することは大変有益であった。

主な成果

- a. 交代で担当する電話相談員に対して、今までの相談状況等を説明すると共にあるかも知れない相談の予測をシュミレーションする等相談のスーパーバイザー的役割を担うことができた。支援活動責任者が常勤でない為に、電話相談事業における日々のまとめ役を担当することができた。
- b. 支援活動責任者の指導の下に直接支援活動に取り組んだ（同行及び単独での支援活動）。常勤職員として、全ての直接支援対象者を掌握しているため、裁判支援、警察関連支援、関係機関との連絡調整等々タイムリーにできやすい。また、支援対象者からの相談電話も受けやすくなった。

5 今後の課題

財政基盤の確立。広報の強化 — 1人でも多くの県民にV S C Oの存在と活動内容を知ってもらい、1人でも多くの被害者にV S C Oを利用してもらうこと。犯罪被害相談員の増員。性犯罪被害者等支援センターの運営強化等を検討していくこと。県警察との連携の強化。行政が関与する「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター」の開設について関係機関へ要望する必要がある。